



東京大学先端科学技術研究センター

東京大学先端科学技術研究センター(先端研)は、1987年に設立された東京大学で最も新しい附置研究所です。従来の大学の殻を破る研究・教育体制の推進拠点として文理融合を実践し、「我が国初」と呼ばれる多くの新制度や取り組みを生み出しています。最大の特徴は、研究者や研究分野の多様性と、臆することなく挑戦する文化にあり、医学・理工系の先端研究から社会科学やバリアフリーなど社会システムに関わる研究まで、40以上の研究室・研究部門が新領域を開拓し、基礎から応用、社会実装を積極的に展開しています。また、東大附置研究所で唯一、博士後期課程(先端学際工学専攻)を有し、イノベーションを生み出す人材育成にも取り組んでいます。



東京大学 先端科学技術研究センター
Research Center for Advanced Science and Technology
The University of Tokyo



K
O
Y
A
S
A
N
C
O
N
F
E
R
E
N
C
E
2022

高聖山山會議

科学・芸術・宗教の対話が見つめる
一二〇〇年後の世界とは。



地球上のすべての人々が 協調して自然と共生する ための 科学技術を目指して

主催者挨拶



東京大学先端科学技術研究センター 所長
先端科学技術研究センター 教授

杉山正和

感染症の猛威や気候変動など、私たちが直面する地球規模で複雑な問題は、科学技術の発展により自然を支配できるという人類の驕りに警鐘を鳴らし、全地球市民が協調して自然と共生する新たな世界像の確立を迫っています。人類が直面する空間的・時間的にマルチスケールな課題に対処するためには、人文社会科学や理工学の垣根を超えて、異分野の科学技術を「つなぐ」必要があります。

このような「つながり」には、論理だけでなく「こころ」が大切だと考えます。課題解決を目指す仲間が感動を共有しあうことで、真のつながりが構築されます。また、科学技術を地域の人々につなぎ、社会実装するには、技術に期待してより良い社会を志向する人々の「こころ」が不可欠です。

多様な人々が集い、理性の対話だけでなく豊かな「こころ」を共鳴させ、それぞれの持てる力をつないで課題解決を目指す、さらに、人と人だけでなく、人と自然を「こころ」がつなぐ、そんな社会の実現を先端研はめざしています。

高野山は、このような「こころ」を涵養する力に溢れています。その環境と包摂性の中で、持続可能なより良い社会を実現するための多様な解を議論し、世界に発信していきましょう。

高野山会議 2022

2022年6月30日～7月3日 於 金剛峯寺 / 高野山大学
主催：東京大学先端科学技術研究センター（主管：先端アートデザイン分野）
共催：和歌山県 / 高野町 / 高野山真言宗総本山金剛峯寺 / 高野山大学
www.aad.rcast.u-tokyo.ac.jp/koyasan/ 題字：添田隆昭
※築野グループ株式会社様からご寄附を頂き有難うございました

主管挨拶



前東京大学先端科学技術研究センター 所長
先端科学技術研究センター 教授

神崎亮平

いま時代は、大きく動き、そのかたちを変えつつあります。私たちの生活に大きな恩恵をもたらしてきた科学技術を私たちは過度に利用してきたことから、自然への負荷が増し、環境破壊、資源やエネルギーの枯渇、さらには異常気象など地球規模の課題を生み出しています。

人類の安寧はもちろんですが、その安寧を持続的に未来までつづけていくことがもっと大切です。そのためには、これまでのように人を中心に自然を利用するのではなく、人も自然の一部であり、自然のあらゆるものとの関係のなかで、私たちは生きている、否、生かされているという視座の転回が必要になってきました。実は、これは本来私たちの心の奥底にある「変わらないすがた」ではないでしょうか。

この本来人が持つ人間性、そして倫理性を復興し、多様な人々、社会、そして地球の未来のすがたを、そしてなによりも未来を担う子供たちの育成を考え、かたちにするため、科学、芸術、デザイン、哲学、宗教など多様な分野の人々が集い、対話する「場」として「高野山会議」を毎年開催し、高野山から1200年後まで発信し続けたいと思います。

本会議を、和歌山県、高野町、金剛峯寺、高野山大学、先端研、そして高野町の皆様との深い縁のもとで開催できることを、こちらより感謝いたします。

高野山会議

高野山會議

タイムスケジュール

TIME SCHEDULE

6月30日(木)

7月1日(金)

7月2日(土)

7月3日(日)

6:00

6:00

7:00

7:00

8:00

8:00

9:00

9:00

10:00

10:00

11:00

11:00

12:00

12:00

13:00

13:00

14:00

14:00

15:00

15:00

16:00

16:00

17:00

17:00

18:00

18:00

19:00

19:00

20:00

20:00

21:00

21:00

22:00

22:00

高野山會議エクスカーショ
案内/宗務総長公室長 藪邦彦

SESSION 02
インクルーシブデザイン
@金剛峯寺講堂
統括/東大先端研特任教授 伊藤節
登壇者/横浜みなとみらいホール館長・東京藝術大学客員教授 新井鷗子
東大先端研准教授 熊谷晋一郎(当事者研究分野)

**東京フィルハーモニー交響楽団のメンバーによる
弦楽四重奏コンサート @金剛峯寺お台所**

受付

開会式・オープニング講話 @金剛峯寺新別殿
開会宣言/東大先端研教授 先端アートデザイン分野研究統括 神崎亮平
ホスト挨拶/東大先端研所長教授 杉山正和、金剛峯寺執行長・高野山真言宗宗務総長 今川泰伸
和歌山県知事 仁坂吉伸、高野町長 平野嘉也、高野山大学長 添田隆昭
オープニング講話/「お大師様の寛容精神」総本山金剛峯寺 社会人権局長 藤本善光

SESSION 01
次世代育成 @金剛峯寺講堂
統括/東大先端研教授 神崎亮平、東大先端研特任教授 近藤薫
進行/東大先端研特任研究員 森晶子
登壇者/東京藝術大学名誉教授 澤和樹、
株式会社ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン 代表取締役社長 重見聡史
高野山大学長 添田隆昭、高野山大学教授 前谷彰(恵紹)
東大先端研所長教授 杉山正和、住友商事株式会社 望月雅志
住友商事株式会社 兵頭宣俊、およびAAD*メンバー

*先端アートデザイン分野(Advanced Art Design Lab)の略称

**東大先端研 先端アートデザイン分野
社会連携研究部門パートナー企業による
公開ディスカッション @高野山大学黎明館**
社会連携研究部門パートナー企業(五十音順)
・株式会社資生堂
・住友商事株式会社
・ソニーグループ株式会社
・日本たばこ産業株式会社
・日本電気株式会社
・富士通株式会社
・マツダ株式会社
・ヤマハ株式会社
・ヤマハ発動機株式会社
・株式会社リクルート
・BLBG株式会社

高野山會議エクスカーショ

◎コースA_環境とデザイン
@高野山の森
案内/高野山大学事務局長・高野山金剛峯寺前山林部長 山口文章

◎コースB_地域づくりとデザイン
@かつらぎ町天野地区
案内/丹生都比売神社 宮司 丹生晃市
かつらぎ町長 中阪雅則

SESSION 03

人間と宗教とテクノロジー
@金剛峯寺講堂
統括/東大先端研特任准教授 吉本英樹
講師/東大先端研教授 原田達也(マシンインテリジェンス分野)
高野山大学副学長・教授 松長潤慶(密教学科)

SESSION 05

仏教は宗教か?
@高野山大学201大教室
統括/高野山大学教授 前谷彰(恵紹)(インド哲学、仏教学、空海思想)
登壇者/北海道大学大学院文学研究院 教授 小田博志(文化人類学)

クラシックコンサート~高野山に響く弦の調べ~@高野山大学黎明館
特別出演/東京藝術大学名誉教授・前同大学長 澤和樹
出演者/東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター
東京大学先端科学技術研究センター 特任教授 近藤薫
東京フィルハーモニー交響楽団弦楽アンサンブル

クロージング/高野山宣言 @高野山大学黎明館

解散

**東大先端研 先端アートデザイン分野
社会連携研究部門 高野山座談会**
@報恩院

ナイトウォーク
@高野山奥の院「一の橋」~中之橋霊園

DAY1

開 会 式 ・ 講 話

日時：6月30日(木) 13時30分～15時00分 場所：金剛峯寺新別殿

開会宣言

東京大学先端科学技術研究センター教授 先端アートデザイン分野研究統括 神崎亮平

ホスト挨拶

東京大学先端科学技術研究センター所長・教授 杉山正和
金剛峯寺執行長・高野山真言宗宗務総長 今川泰伸
和歌山県知事 仁坂吉伸
高野町長 平野嘉也
高野山大学長 添田隆昭

オープニング講話

「お大師様の寛容精神」
総本山金剛峯寺 社会人権局長 藤本善光

SESSION 01

次世代育成

統括：神崎亮平 / 近藤薫

日時：6月30日(木) 15時30分～18時00分 場所：金剛峯寺講堂

自然中心 / 人間中心 / 視座の転回 / 人間性 / 倫理性 / 未来

目的

人間性豊かな未来と人材育成をみすえ、芸術、宗教、科学技術の果たすべき役割、そして「高野山会議」の意義を議論する。

概要

「高野山会議 2022」の最初のセッションとして、人間性や倫理性ある未来をみすえ、芸術・宗教・科学技術分野の専門の立場からの話題提供と、4日間にわたり繰り返される各セッションを担当する先端アートデザイン分野の教員等からその目的を紹介し、芸術、宗教、科学技術の果たすべき役割、そして「高野山会議」の意義についてパネルディスカッションを行う。

「1200年後の世界」とのかかわり

1200年にわたりサステイナブルな「場」を構築してきた高野山には、人間性と倫理性豊かな社会の実現にむけたヒントが潜んでいる。現代を代表する芸術・宗教・科学技術の専門家の未来にむけたさまざまな角度からの対話が、この「高野山」という「場」に集い行われることで、はじめて1200年後に向けよりよく生きる未来が現実味を帯びてくる。

【ホスト&ゲスト】神崎亮平 / 近藤薫 / 澤和樹 / 重見聡史 / 添田隆昭 / 前谷彰 / 杉山正和 / 望月雅志 / 兵頭宣俊 / 森晶子 / AAD メンバー

DAY2

SESSION 02

インクルーシブデザイン

統括：伊藤節

日時：7月1日(金) 10時00分～12時00分 場所：金剛峯寺講堂

社会的包摂 / バリアフリー / ダイバーシティ / インクルーシブアカデミー / 当事者研究 / ユニバーサルデザイン

目的

持続的な包摂社会創造のためのインクルーシブデザイン。科学、アート、デザインの視点からソーシャル・インクルージョンの未来に向けて我々がすべきことを議論する。

概要

SDGsの幾つかのゴールにも謳われるノーワンビハインド、AAD 先端アートデザインラボの主要テーマでもあるインクルーシブな社会の創造の為の方法論の一つインクルーシブデザイン。医学博士で当事者研究の熊谷晋一郎先生から科学者視点でインクルーシブアカデミーについて、音楽構成作家の新井鷗子先生からアーティスト視点でインクルーシブアーツについて、伊藤節からデザイナー視点でインクルーシブデザインについてそれぞれお話した後、持続的な包摂社会創造のために我々がすべきことを一緒に議論していく。

「1200年後の世界」とのかかわり

2400年前に古代ギリシアのプラトンが、1200年前に高野山の空海が、約600年前にルネッサンスのレオナルドが見据えた世界が今ここにある。今から600年、1200年、2400年後の世界のあり様は今の我々の努力次第である。産業革命以降の急速な人間社会の発展により生じた様々な歪みを是正し、「和」の心で大自然と共生し全ての人間をインクルージョンする包摂の世界を持続していくために、プラトンが説いたリベラルアーツのようにアートデザイン、科学と(神学)宗教が調和して努力し続けていくことが大切である。

【ホスト & ゲスト】伊藤節 / 新井鷗子 / 熊谷晋一郎

東京フィルハーモニー交響楽団のメンバーによる 弦楽四重奏コンサート

日時：7月1日(金) 12時00分～12時40分 場所：金剛峯寺お台所

プログラム

メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲第2番イ短調 Op.13

作曲者について

1809年生まれのフェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディは、文豪ゲーテにして W.A. モーツァルト以上の天才と言わしめた。作曲家、指揮者、ピアニスト、教育者、文筆家、画家、プロデューサーとしても活躍した超人。38年間の短い生涯に手がけた数々の名曲だけでなく、J.S. バッハの「マタイ受難曲」の復刻再演、ライプツィヒ音楽院の設立など、その功績は枚挙に遑がない。

【出演】第一ヴァイオリン 近藤薫 / 第二ヴァイオリン 小川恭子 / ヴィオラ 須田祥子 / チェロ 黒川実咲

社会連携研究部門公開ディスカッション

～ 1200 年という時間軸から考える～

事前の申込は不要で
現地にて受付・
ご参加いただけます

日時：7月1日(金) 14時30分～17時30分 場所：高野山大学黎明館

1200年 / 変化 / サステイナブル / 宗教 / 文化 / テクノロジー

目的

“1200年後”という未来・長期的思考をベースに、住職・学生・企業等多様な価値観の交換による新たなアイデア創出・気づきの機会とする。

概要

1200年後という大テーマに従い、グループ毎に事前設定した自由テーマに基づき事前に議論を重ね、当日発表を行い、各発表内容に対してディスカッションを行う全員参加型セッション。教授・住職・学生・企業皆が双方向での意見交換を行い、新たな価値創造を目指す。

「1200年後の世界」とのかかわり

1200年後の世界を想像する。今までの1200年とこれからの1200年は何が異なるのか？現代では何が残り、今後何が変わっていくのか？まさに1200年という長期的な観点から見える共通点・課題・今後の取るべきアクション等の気づきを、高野山の取り組みや思想、学生の意見も交えながらひも解いていきたい。

社会連携研究部門パートナー企業（五十音順）

株式会社資生堂 / 住友商事株式会社 / ソニーグループ株式会社 / 日本たばこ産業株式会社 / 日本電気株式会社 / 富士通株式会社 / マツダ株式会社 / ヤマハ株式会社 / ヤマハ発動機株式会社 / 株式会社リクルート / BLBG 株式会社

【ホスト&ゲスト】望月雅志 / 兵頭宣俊

DAY3

高野山会議エクスカッション

コース A_ 環境とデザイン

日時：7月2日(土) 9時00分～11時30分 場所：高野山の森

<案内>高野山大学事務局長・高野山金剛峯寺前山林部長 山口文章

コース B_ 地域づくりとデザイン

日時：7月2日(土) 8時00分～12時30分 場所：かつらぎ町天野地区

<案内>丹生都比売神社 宮司 丹生晃市
かつらぎ町長 中阪雅則

SESSION 03 人間と宗教とテクノロジー

統括：吉本英樹

日時：7月2日(土) 13時00分～15時00分 場所：金剛峯寺講堂

テクノロジー / 人工知能 / 宗教

目的

宗教とテクノロジーの共通項を探り、これからの未来に両者がどのように、時に手を取り合いながら、人間と関わっていくべきかを議論する。

概要

テクノロジーはもはや現代の宗教だとも言われる。その是非はさておき、技術が人間の価値観や存在にまで影響を与える時代であることは間違いない。今年は東大先端研から人工知能研究の原田達也氏と、高野山大学から密教学の松長潤慶氏を迎えて、人間と機械の関係、宗教観が技術発展に及ぼしう影響など、テクノロジーと宗教のこれからを議論する。

「1200年後の世界」とのかかわり

現代的なコンピュータが登場してまだ数十年であり、いま宗教とデジタルテクノロジーの時間軸は比較にもならない。しかし今から1200年後、人間をめぐる宗教とテクノロジーの存在感が大きく変化したときに、この両者の関係も、今とは異なるものになるはずである。そこであるべき姿とは、どういったものかを考えたい。

【ホスト & ゲスト】吉本英樹 / 原田達也 / 松長潤慶

SESSION 04 気候変動・持続可能なエネルギー・社会システムとデザイン

統括：伊藤志信

日時：7月2日(土) 15時30分～17時30分 場所：金剛峯寺講堂

サステイナブル / 気候変動 / エネルギー / 環境 / 自然 / デザイン

目的

人間中心の文明拡大がもたらした気候変動。その悪影響を最小限にとどめ、自然と調和するエネルギー・社会システムを築くことはできるのか。過去の気象から自然の摂理を識り、サステイナブルな社会に人々を導く技術とデザインの役割を論じる。

概要

私たちの生活は、地球上の物質・エネルギー循環に拠っている。過去から現在にわたる気象のビッグデータを再整備することで、気候変動の影響を定量的に論じ、エネルギートランジションの目標・戦略を明確化できる。一方、再生可能エネルギーに根差した社会の姿は地域ごとに異なり、その最適な設計にも気象データは不可欠である。そして、持続可能な社会を粹に実現する、デザインの力が今求められている。

「1200年後の世界」とのかかわり

科学技術とデザインので、私たちの地球を1200年後の世代にまでつなげるだろうか？産業革命以降の100年余を総括して、1000年以上にわたり持続可能な物質・エネルギー循環を構築できるのだろうか？私たちの「こころ」の幸せと、持続可能性は両立できるのか？物質中心の拡張主義から解き放たれた、新たな科学・文化の方向性は？

【ホスト & ゲスト】伊藤志信 / 中村尚 / 杉山正和

SESSION 05 仏教は宗教か? 統括：前谷彰(恵紹)

日時：7月3日(日) 9時30分～11時30分 場所：高野山大学 201 大教室

仏教 / 宗教 / religion

目的

仏教を religion の訳語としての「宗教」の範疇で捉え得るかどうかの問題について議論する。

概要

文化人類学的に見て、「宗教」とは何であるかについて概説し、religion の語源を探り、日本において「宗教」という言葉がどのような経緯を経て定着するに至ったかについて探求し、仏教＝宗教という等式は成立し得ないことを検証する。

「1200年後の世界」とのかかわり

仏教という思想体系は、ニュートンによって発見された「万有引力の法則」と同列に扱われるべき宇宙のありようを解明した「縁起の法則」から出発したものであって、生物多様性理論や永久平和論等に積極的に応用されるべき法則であることを主張する。

【ホスト & ゲスト】 前谷彰(恵紹) / 小田博志

クロージング

日時：7月3日(日) 14時30分～15時00分 場所：高野山大学黎明館

セッション総括

共催者コメント

高野山宣言

閉会

東京大学先端科学技術研究センター × 東京フィルハーモニー交響楽団

高野山会議 2022 クラシックコンサート

～高野山に響く弦の調べ～

日時：7月3日(日) 会場：高野山大学松下講堂黎明館

開場 12時15分 開演 13時00分 (コンサート～クロージング 15時00分終了予定)

【Program】

J.S.バッハ 2つのヴァイオリンのための協奏曲 より

A.ドヴォルザーク 弦楽セレナーデ ほか

【出演】

東京フィルハーモニー交響楽団
弦楽アンサンブル

コンサートマスター：近藤薫

東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター
東京大学先端科学技術研究センター 特任教授

【特別出演】

ヴァイオリン 澤和樹

東京藝術大学 名誉教授
前東京藝術大学長



講師紹介

高野山會議

K
O
Y
A
S
A
N

C
O
N
F
E
R
E
N
C
E
2022

先端アートデザイン分野
講演者(登壇順)



住友商事株式会社北ハノイ開発部主任
兵頭宣俊

慶應義塾大学商学部商学科卒業。慶應義塾体育会「Leadership Education Athlete Program」の社会人講師を務める。2017年に住友商事株式会社に入社し、物流・社会インフラ事業全般に対する会計・税務面からの支援業務を担当したのち、現在は北ハノイ開発部にてベトナムハノイ市北部エリアの大規模都市開発案件に従事。コンソーシアム運営、新規事業開発や事業会社の設立準備、事業収支計画の策定を担当。



高野山大学副学長・教授
松長潤慶

高野山大学文学部密教学科教授。現在副学長。博士(密教学)。高野山補陀洛院住職。種智院大学講師、高野山大学講師を経て現職。大学院より密教図像学に携わり、インド、インドネシア、インドシナ、中国等の東アジア諸地域において現地研究者とともに海外学術調査を行っている。海洋交易路における密教の流布形態の考察研究が主な研究テーマ。その他、弘法大師空海の著作研究も行う。



東京大学先端科学技術研究センター教授、同センター前所長
神崎亮平

筑波大学大学院生物科学研究科博士課程修了。筑波大学生物科学系教授を経て、2004年東京大学大学院情報理工学系研究科教授。2006年東京大学先端科学技術研究センター教授。同センター所長(2016-2022)。ミラノ・ピコッカ大学名誉学位(2019)。日本比較生理生化学会会長(2011-2015)などを歴任。和歌山県文化賞受賞(2020)。JSTジュニアドクター育成塾推進委員会委員長(2017-)。JST戦略的創造研究推進事業(さきがけ)「生体多感覚システム」研究総括(2021-)。



東京大学先端科学技術研究センター特任准教授
伊藤志信

多摩美術大学美術学部卒業、ドムスアカデミーマスター修了。空間からプロダクト、グラフィックから、アドバンスまで、世界のクライアントと多岐にわたるデザイン活動を行っているデザイナーである。イタリアを代表する家具やオブジェのブランドから多数の作品が発表されている。文化継承のマエストロ「匠」とのコラボレーション、サステナビリティに関するデザインにも取り組んでいる。ゴールデンコンパス賞(伊)、Reddit Award 賞(独)など多くの国際デザイン賞を受賞。2019年にイタリアで700年の伝統のある「mastro della Pietra dell' arte」の称号を授与された。東京大学先端科学技術研究センター特任准教授、ミラノ工科大学契約教授、多摩美術大学客員教授。



ヴァイオリニスト、東京藝術大学名誉教授、同大学前学長
澤和樹

1955年和歌山市生まれ。1979年東京藝術大学大学院音楽研究科修了。ロン＝ティボー、ヴェニエアフスキ、ミュンヘンなどの国際コンクールに入賞。イザイ・メダル、ホルダー音楽祭メダル受賞など、ヴァイオリニストとして国際的に活躍。1990年澤クワルテット結成、1996年指揮活動開始。2004年和歌山県文化賞受賞。東京藝術大学音楽学部教授、音楽学部長を経て2016年4月より東京藝術大学長。英国王立音楽院名誉教授。



東京大学先端科学技術研究センター所長・教授
杉山正和

2000年東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻博士課程修了、博士(工学)。同年より同研究科化学システム工学専攻助手。2002年同研究科電子工学専攻講師、同助教授、2006年同研究科総合研究機構助教授。2014年より同研究科電気系工学専攻准教授、2016年より同教授を経て、2017年より現職。2022年東京大学先端科学技術研究センター所長。2003年化学工学会奨励賞、2014年東京大学大学院工学系研究科 Best teaching award、2017年東京大学大学院工学系研究科長表彰(研究部門)を受賞。



横浜みなとみらいホール館長、東京藝術大学客員教授
新井鷗子

東京藝術大学音楽学部楽理科および作曲科卒業。NHK教育番組の構成で国際エミー賞入選。これまでに「顕名のない音楽会」「東急ジルバスターコンサート」などの番組の構成を務める。東京藝術大学にてインクルーシブアーツ研究に携わり、一本指で弾ける楽器「だれでもピアノ」を開発。著書に「おはなシクラシック(アルテスバブリッキング)」、「音楽家ものがたり(音楽之友社)など。横浜みなとみらいホール館長、東京藝術大学客員教授。



東京大学先端科学技術研究センター教授
中村尚

1960年神奈川県出身。1990年ワシントン大学大気科学科博士課程修了。プリンストン大学客員研究員、東京大学大学院理学系研究科助手・助教授・教授を経て、2011年より同大学先端科学技術研究センター教授。気象庁異常気象分析検討会会長。専門は異常気象と気候変動の力学。亜熱帯・中高緯度域の大気循環の特性を海洋との相互作用の観点から再検証するプロジェクト「気候系の Hot Spot」を推進。温暖化の進行につれて大気や海洋が被る変化・変調やそれに伴う異常気象について精力的に研究を展開。2020年末より過去からの4次元地域気象データの作成とその活用拡大を目指す10年プロジェクト ClimCORE を主導。



東京大学先端科学技術研究センター特任教授
伊藤節

筑波大学大学院芸術研究科修了。1995年ミラノに自身のデザイン会社を設立。建築、インテリアからプロダクト、クラフトまで多岐にわたるデザインを総合的に行う。世界各国で作品発表、展示会を行い、ゴールデンコンパス賞(2011伊)、レッドドット Best of the Best 賞(2016 独)など多くの国際賞を受賞。作品はミュンヘンとミラノの近代美術館にパーマナントコレクションとして納められている。700年の歴史をもつイタリアの芸術マスターの称号を得る(2019伊)。ドムスアカデミー、ベネツィア大学、ミラノ工科大学契約教授、筑波大学芸術系教授、東京大学先端科学技術研究センター特任教授。



東京大学先端科学技術研究センター特任准教授
吉本英樹

東京大学工学部航空宇宙工学科、同修士課程修了。その後渡英し、2016年英国 Royal College of Art, Innovation Design Engineering 学科博士課程修了。2015年にロンドンで Tangent Design and Invention Ltd 創業。2020年より東京大学先端科学技術研究センター特任准教授。工学とデザインのハイブリッドな分野で活躍し、両分野で受賞多数。自身のスタジオ「TANGENT」では、多国籍なチーム率い、世界的な高級ブランドを顧客に、プロダクト開発から展示会ディレクションまで様々なデザインプロジェクトを手がける。



株式会社ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン代表取締役社長
重見聡史

1987年株式会社本田技術研究所入社。自動車のエンジンコントロールユニット(ECU)の量産開発。1996年ロボットの研究に参画、2002年上席研究員。ロボット制御システム研究を行い、ASIMOは開発当初から関わり開発責任者を務めた。2015年基礎研究センター執行責任者・同センター長、福島第一原子力発電所向けの高所調査ロボットを開発。2017年より株式会社ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパンでの研究従事を経て、現職。



東京大学先端科学技術研究センター特任研究員
森晶子

前東京都教育庁指導部国際教育事業担当課長。2021年3月まで20年間、東京都庁に勤務。知事本局、財務局などを経て、教育庁でグローバル人材育成を担当。全国の小中高校生が利用する体験型英語学習施設TOKYO GLOBAL GATEWAYの開設や、国際交流のワンストップサービスの創設、海外連携等を手掛けた。2021年4月、東京大学先端科学技術研究センターで「先端教育アウトリーチラボ(AEO)」を開発。高大連携・接続、探究活動、STEAM教育などの観点から、教育改革支援や実践などを行う。米国ジョージタウン大学公共政策大学院卒(修士)。高等学校教諭一種免許(書道)。



東京大学先端科学技術研究センター准教授
熊谷晋一郎

東京大学先端科学技術研究センター准教授、小児科医。東京大学バリアフリー支援室長。新生児仮死の後遺症で、脳性マヒに。以後車いす生活となる。東京大学医学部医学科卒業後、千葉西病院小児科、埼玉医科大学小児心臓科での勤務、東京大学大学院医学系研究科博士課程での研究生活を経て、現職。専門は小児科学、当事者研究。主な著書に「リハビリの夜」(医学書院、2009年)、「当事者研究」(岩波書店、2020年)、「<責任>の生成」(共著、新曜社、2020年)など。



高野山大学教授
前谷彰(恵紹)

1958年生まれ。1989年高野山大学大学院文学研究科仏教学専攻博士(はくし)課程単位取得退学。高野山大学非常勤講師(英語・サンスクリット語担当)・文学部仏教学科専任助手・文学部教授・スピリチュアルケア学科主任教授を経て2009年より同大学文学部密教学科教授(現・人間学科教授)、高野山専修学院能化、高野山大学図書館長、同大学大学院文学研究科委員長を兼務のほか仏教学術振興会評議員、ハーリー学仏化学会理事、高野山学園評議員も務める。専門分野は「ラモ」教思想、初期仏教・大乘思想、サンスクリット語、空海思想、言霊学。主要著作に前谷彰訳・解説「ブダのおしえ〜真訳スッタニパータ〜」(講談社)。



ヴァイオリニスト、東京大学先端科学技術研究センター特任教授
近藤薫

東京芸術大学をアカンサス賞を受賞して卒業後、同大学院修士課程修了。現在、東京フィルハーモニー交響楽団およびFuture Orchestra Classics コンサートマスター、バンクーバー・メトロポリタン・オーケストラ首席客演コンサートマスター、リヴァラン弦楽四重奏団主宰。東京大学先端科学技術研究センター先端アートデザイン分野特任教授。東京音楽大学、洗足音楽大学非常勤講師。JST「さきがけ」領域運営アドバイザー。東京フィル創設時のコンサートマスター近藤富雄は祖父で、三世に渡ってヴァイオリニストという音楽家の家系に育つ。愛知県出身。



総本山金剛峯寺社会人権局長
藤本善光

高野山大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。上海国際商業学院日本語学科専任講師。高野山大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。上海国際商業学院日本語学科専任講師。高野山大学非常勤講師等を経て、高野山真言宗十輪院住職。本山布教師。高野山の古地図や昭和初期の高野山案内、絵はがき、弘法大師関連の児童向け絵本などを収集し、布教に役立てている。



高野山大学長
添田隆昭

高野山大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。高野山真言宗宗務所企画室、高野山高等学校校長、総本山金剛峯寺執行長・高野山真言宗宗務総長、学校法人高野山学園理事長などを経て、現在、高野山蓮華定院住職、高野山大学長、高野山学園理事。主な著書に「大師はまだおわしますか」(高野山出版社、2010年)がある。



住友商事株式会社デジタルマーケティング事業部部長代理
望月雅志

東京大学経済学部経営学卒業。1999年に住友商事に入社し、アパレル製品の輸入卸業を担当したのち、テレビ通販事業を担当。その後2012年タイにテレビ通販の合弁事業会社を設立運営し、現在は新規事業開発担当として、スタートアップ向け投資を担当、サブスクリプションサービスやアートプラットフォーム事業を推進している。



東京大学先端科学技術研究センター教授
原田達也

東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。2013年同大学大学院情報理工学系研究科教授。2019年同大学先端科学技術研究センター教授、理化学研究所革新知能統合研究センターチームリーダー(2016-)、国立情報学研究所医療ビッグデータ研究センター副センター長(2017-)。画像認識、機械学習、知能ロボットに興味を持つ。ILSVRC2012 fine-grained classification 第一位、ILSVRC2012 classification task 第二位、文部科学大臣表彰科学技術賞などを受賞。著書に「画像認識」(講談社)ほか。



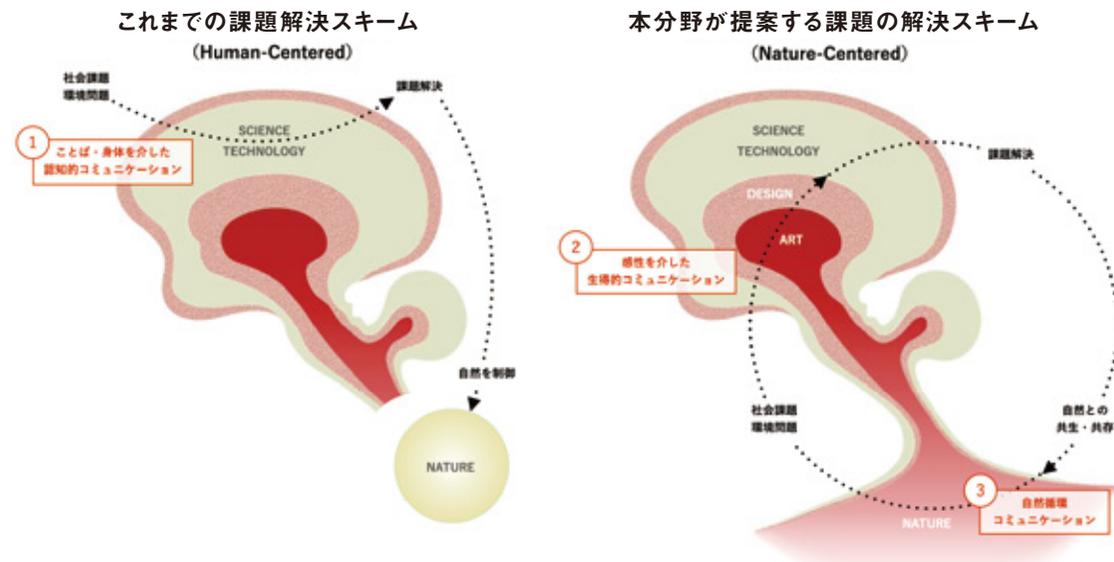
北海道大学教授
小田博志

香川県に生まれる。大阪大学大学院人間科学研究科修士課程修了の後、ハイデルベルク大学医学部心身医学科医療心理学研究室に留学し、学位(Dr.sc.hum)を取得。現在、北海道大学大学院文学研究科・文化人類学研究室教授。2022年4月から9月の期間、高野山大学に国内留学中。専門は文化人類学、平和研究、生命論、質的研究方法論など。著書に「エスノグラフィー入門」(春秋社、2010年)、「平和の人類学」(法律文化社、2014年)、訳書「新版 質的研究入門」(春秋社、2011年)など。

「先端アートデザイン分野」

「最適解」だけでなく「多角的な解」を

複雑化する社会課題には、科学技術が導く局所的な最適解や西洋の対処療法的な問題解決だけでは対処できなくなっています。モノづくり（科学技術）は、職人、機能の時代を経て、人間主義（Human-Centered）へと進化し、多くの糧を人類にもたらしました。一方で、予期せぬ地球規模の社会問題を引き起こしています。多様な人からなる複雑な社会では、未来の人類や環境、地球を見据えた、自然を中心とする「Nature-Centered」でインクルーシブな社会の実現を目的とする、新しいメソッドが必要です。先端アートデザイン分野は、自然と一体化する日本人の精神、他を慮る心を原点に、科学技術、アート、デザインを融合した「Nature-Centered」な世界を追求し、多角的でハイブリッドな解を創出します。



Nature-Centeredの追求
 ~科学技術、アート、デザインの
 融合世界とは?

人を中心としたHuman-Centeredな課題解決から、科学・技術(①)とアート・デザイン(②)を包摂することで、自然と共生・共存するNature-Centered(③)な課題解決へと視座を転回し、真のインクルーシブ社会の実現を目指します。

シンボルについて



古代ギリシアの著名な研究者たちが集った多種多様な知の融合を象徴する「アテナイの学堂」と、仏教の世界において大切な意味を秘めている和を示す「丸窓、円」、Nature-Centeredの「N」とInclusiveの「I」を組み合わせて、「和」をもって持続的なインクルーシブ社会を創造することを表現しました。
 Design ©Shinobu Ito

第一線のアートデザイン実践者 先端アートデザインラボ教員陣



東京大学先端科学技術研究センター 前所長 神崎亮平 教授	Setsu & Shinobu ITO 共同代表 伊藤節 特任教授	Setsu & Shinobu ITO 共同代表 伊藤志信 特任准教授	東京フィルハーモニー交響楽団 コンサートマスター 近藤薫 特任教授	TANGENT 創業者 吉本英樹 特任准教授
---	--	--	--	-------------------------------------

連携協定機関

高野山真言宗総本山金剛峯寺
 高野山大学
 和歌山県・和歌山県高野町
 ミラノビッコカ大学
 ミラノ工科大学
 東京フィルハーモニー交響楽団

パートナー企業 [社会連携研究部門]

株式会社資生堂
 住友商事株式会社
 ソニーグループ株式会社
 日本たばこ産業株式会社
 マツダ株式会社
 ヤマハ株式会社

[共同研究]

凸版印刷株式会社
 朝日インテック株式会社

AADアドバイザー

新井 鷗子 (横浜みなとみらいホール館長 東京藝術大学客員教授)
 Stefania Bandini (人工知能研究者 ミラノビッコカ大学教授)
 Stefano Giovannoni (デザイナー Giovannoni Design 社代表)
 Ashley Hall (デザイン研究者 ロイヤルカレッジオブアート教授)
 原田 則彦 (カーデザイナー Zagato 社デザイン担当副社長)
 長谷川 豊 (ソニーデザインコンサルティング株式会社代表取締役)
 久石 譲 (作曲家 指揮者 ピアニスト)
 Vincenzo Iavicoli (College for Creative Studies デトロイト校教授)
 乾 龍仁 (高野山学園顧問)
 石丸 恭一 (東京フィルハーモニー交響楽団専務理事/楽団長)
 勝沼 潤 (日本電気株式会社 コーポレートエグゼクティブ)
 川田 学 (ヤマハ株式会社デザイン研究所所長)
 河口 洋一郎 (アーティスト 東京大学名誉教授)
 木下 拓也 (ヤマハ発動機株式会社上席執行役員クリエイティブ本部長)
 隈 研吾 (建築家 東京大学特別教授)
 Birgit Lohmann (デザイナー デザインブーム創業者)
 前田 育男 (マツダ株式会社シニアフェロー)
 Rossella Menegazzo (ミラノ大学文化環境学部准教授)

Jeff Mills (ミュージシャン 作曲家 DJ)
 信藤 洋二 (資生堂クリエイティブ(株)シニアクリエイティブディレクター)
 大野 和士 (指揮者 新国立劇場オペラ芸術部門監督)
 大沼 信一 (UCL ユニバーシティカレッジロンドン教授)
 大瀧 裕樹 (日本たばこ産業株式会社 D-LAB 部長)
 Marc Sadler (デザイナー ラッフルズミラノ校ディレクター)
 佐藤 恵子 (キュレーター)
 塩見 直輔 (株式会社リクルート執行役員)
 添田 隆昭 (高野山大学長)
 杉浦 滋彦 (美術研究者 企業経営者)
 竹中 英介 (住友商事株式会社経営企画部長)
 辻井 伸行 (ピアニスト 作曲家)
 宇田 哲也 (富士通株式会社デザインセンター長)
 Patricia Urquiola (デザイナー Patricia Urquiola社代表)
 山田 和樹 (指揮者)
 吉田 都 (バレリーナ 新国立劇場舞踏芸術部門監督)
 Francesco Zurlo (ミラノ工科大学デザイン校副校長/教授)

(敬称略・姓のアルファベット順)